

池袋

上野

山手線一周

新宿

秋葉原

東京

子どもの貧困 対策センター^{設立}を!!

9日間8駅で街頭募金

渋谷

品川

有楽町

学生代表は中大生 高橋遼平さん(法4)

6人に1人の子どもが貧困に悩んでいる。親を亡くした子どもの支援活動を続ける中央大学法学部4年の高橋遼平さんらが、5月24日から6月21日までの土日

日に東京の山手線を一周して街頭募金を行った。

5月の日曜日午後。真夏を思わせる日差しのなかで、「ご通行中の皆さま〜！」と声を張り上げた。新宿駅西口の歩道はひっきりなしに人が行き交う。隣では別の募金活動がマイクを持ってアピールする。通行人に自分たちの声を届けるだけでも大変だ。

高橋さんは学生集会『STOP! 子どもの貧困東京ユースミーティング』の実行委員長。改善のため政府が主宰する会議では学生代表として意見を述べている。

この日は学生6人とともに、ひとり親家庭が増えたことで貧困に悩む

子どもたちの現状や親を亡くした自らの体験をまじえて、子どもの貧困対策への理解と協力を訴えた。

手製の募金箱を持ち、メッセージ

プレートで通行人に呼び掛けた。新宿を発着駅とし、週末ごとに池袋、上野、秋葉原、東京、有楽町、品川、渋谷を回った。



自分の体験を話し、センターの設立を訴える高橋遼平さん(写真中央)と設立準備会の学生たち

子どもを貧困から救う活動



今回の街頭募金活動は、子どもの貧困対策に取り組む従来の民間団体が、年内に寄付金の控除が受けられる公益財団法人への移行を目指すことに連動するもので、高橋さんら学生が子どもの代表として理事などの役員になり、運営に携わる。

これまで地道に活動を続けてきた。2009年から、あしなが育英会を先頭に「子どもの貧困対策法」の制定を主張し続け、13年6月になって法律が成立した。昨年8月には具体的な施策などをまとめた大綱が制定

された。

ことし4月、首相官邸で安倍首相、経済界、労働界、支援団体らが協議。国民運動へと展開することも確認され、新たな団体となる『子どもの貧困対策センター』（仮称）設立へ動きだした。同センターは子どもの貧困の調査研究と政策提言をする。NPOなどへの中間支援、子どもへの直接支援。こうした事業を軸とする財団法人として、子どもの貧困対策法成立から満2年を迎えた6月19日に法人化。今年度中に公益財団法人

化を目指す。高橋さんらのひたむきな活動が社会を動かし、貧困に悩む子どもたちに光を当てている。

「父を自殺で亡くし、貧困を経験した当事者です」と高橋さん。「学生集会は北海道から九州まで全国6カ所で実行され、大学生も汗を流しています。どうか『日本の未来=子どもたちに』温かい投資を！」と熱弁をふるった。

街頭募金初日（5月24日）の様子はNHKなどが取材し、同日夕のテレビニュース枠で放映された。

電子書籍アプリ『白門書房』

『白門書房』は、中央大学が発行する広報誌を集めた、電子書籍配信アプリです。

『HAKUMON Chuo』のバックナンバーはもちろん、これまで印刷物のみで配布していた中央大学の大学案内誌や学部ガイドブック、大学院・専門職大学院案内、附属学校案内などを、電子ブックの形式でダウンロードできます。

利用方法は簡単。iOSの場合はApple Inc. が運営するApp Store（アップストア）から、Androidの場合はGoogle Inc. が運営するGoogle Playから無料でダウンロードできます。App StoreおよびGoogle Playへは、無線LAN（Wi-Fi）を通じてどこからでもダウンロードできます。

『白門書房』ダウンロード後は、インターネットへの接続環境がなくても、電子ブックを開くことができます。

過去のバックナンバーや他の媒体を読みたい場合は、4GやWi-Fiを通じて何冊でもダウンロード

可能です。

本電子書籍・ドキュメント配信システムは、2015年6月現在、88冊の大学広報誌を用意しており、今後も、新刊本発刊次第、順次電子ブックで提供する予定です。

『白門書房』アプリについての詳細は、以下のサイトよりご覧いただけます。

【iOS版】

<http://itunes.apple.com/jp/app/id413465097>

【Android版】

<https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.documentcontainer.web>

※Android4.0未満の機種ではご覧いただけませんので、ご注意ください。

iOS版ニューススタンド（2015年リリース）

※定期刊行物である『HAKUMON Chuo』、『中央大学の近況』についてのみ、こちらでご覧いただけます。